

農林水産大臣賞(交流促進部門)

農事組合法人 かなん

～なにわの伝統野菜を核にした多品目周年生産の展開～

代表者：代表理事 久門明郎
所在地：大阪府

構成員：河南町内の農業者114名
活動開始年月日：平成16年4月

表彰理由

なすやきゅうり中心の野菜産地が生産者の高齢化などに対応するため、短期間で直売所を中心に多品目少量生産を実現。特に、標高差を利用した周年供給を実現したほか、「なにわの伝統野菜」をはじめとする地域農産物、米粉パン等の加工品など地域的な特色のある農産物を生産。

併せて、生産履歴記帳の実践や「大阪エコ農産物認証制度」に取り組むなど、安全・安心な農産物の生産にも力を入れており、学校給食の食材提供や大阪市内の児童の収穫体験など食育や交流活動にも力を入れており、取組期間は短いものの、他地域のモデルとなる優れた取組。

取組内容

1 直売所を中心とした、多品目周年生産の展開

平成14年から毎週末実施していた「ふれあい朝市」の出荷者が母体となって、平成16年4月に農事組合法人「かなん」を設立。「かなん」は、河南町から「道の駅かなん」の指定管理者として管理運営を委託され、直売所を中心に営業。

道の駅の「駅長」自身が先頭に立ち、種苗会社、普及センター、大阪府農林技術センター等の協力を得て、2ヶ月に1回栽培技術講習会を実施し、多品目化を推進。現在の農産物の取扱数は、野菜147品目、果実53品目、穀物・豆類が32品目と多様。

標高差(60m～400m)の利用、播種時期の調整により、周年出荷を実現。

直売所の設立に合わせて、「なにわの伝統野菜」に対する取組を強化し、栽培技術の普及と生産拡大に取り組み、現在大阪府内の作付面積の過半以上を作付けする主産地に成長。

農薬の使用履歴記帳を徹底するほか、減農薬・減化学肥料への取組を推進し、「大阪エコ農産物認証制度」に基づく生産を拡大。

2 農産加工等への取組

加工品の人気商品としては、米粉パンと餅。その他、みそやジャム(みかん、イチゴ、梅、イチジク)を製造。加工により、19名の女性の雇用を創出。

規格外等の野菜等を利用し、材料は100%かなん産の「道の駅弁当」を開発・販売。

3 学校給食等への取組

15～17品目の地場農産物を、小学校5校、幼稚園1園の1250人分に供給。試食会などを通じて交流。

大阪市内の幼稚園、小学校に出向き、学校農園において栽培指導を行うほか、幼稚園児と保護者が参加して農作業を体験する、ふれ合い農園を開催。